



# NEWSLETTER



第 30 号

ラファエラ東ティモール募金

2019 年 8 月

今年東ティモールが長い民族自決のための闘いの末、ついに独立を達成した“住民投票”から 20 年目に当たります。ポルトガル植民地の多くが、1970 年代には独立していた中、東ティモールはポルトガルから遠隔の地にあったことなどから独立の兆しもありませんでした。その後 1975 年に隣国インドネシアの侵略を受け、24 年間に及ぶインドネシア占領時代が続いた結果、民族自決権行使の道は大変厳しいものになりました。けれども、勇敢な武装闘争、根張り強い外交闘争、民族を上げての地下活動という三重の闘争活動を続けた結果 1999 年 8 月 30 日、国連監視下で住民投票が実施され、有権者の 78.8% が独立を選択しました。ところがそれは東ティモールの人々にとって晴れやかな結果ではありませんでした。投票結果が発表された 9 月 4 日から全土でインドネシア軍とそれに後押しされた民兵による破壊作戦が展開され、東ティモールは文字通り焦土と化したのでした。

実はインドネシア軍はハビビ政権になって東ティモール独立の道筋が見えてきた 1999 年初めからすでに全国で様々な破壊・虐殺を行っていました。ですから 8 月 30 日の投票参加は東ティモール人が命がけで行った行動だったのです。下記は、住民投票前の同国の現状を伝えるディリ在住の修道女のメールと住民投票後の教会指導者ベロ司教の同国民への呼びかけの新聞記事です。



There are so many stories I could recount to you. Too many. Too many deaths. Too many disappearances. Too many cruel injustices. If they kill, it's already bad enough. But they kill and then take away the bodies so that here is no evidence of any killing. The families cannot even bury their dead in peace. ( an email from a nun in Dili, May, 1999 )

お話しすべきことは多々あります。あまりにも数多くの死！行方不明！不正な残虐行為。殺すだけでも重大なことですが、彼らはそれだけでなく、証拠隠滅のため、死体を分からない所に投げ捨ててしまうのです。家族は安らかに遺体を埋葬することすらできません。

## NEWS NOV.1999

East Timor's spiritual leader, Bishop Carlos Belo, has used the eighth anniversary of the Dili massacre to appeal to his people to forgive the Indonesian military and militias and to build a tolerant, multi-racial society. (Article in Sydney Morning Herald, Nov.1999)

東ティモールの教会指導者カルロス・ベロ司教はディリ虐殺事件の 8 周年記念の機会を利用して、国民にインドネシア軍と民兵を許そう、そして寛大かつ多民族な社会を建設しようと呼びかけた。(シドニー・モーニング・ヘラルド 1999 年 11 月)



## 栄養改善のための

### 『聖ラファエラ子どもの家』オープン

東ティモールでは5歳以下の子どもの半数が栄養不良と言われています。そうした状況を改善すべく、東ティモール募金の協力者の一人である眼科医坂西京子様へのイニシアティブで栄養改善のためのプロジェクトが始まりました。私たちの修道会はその現地での活動を担当しています。ご協力下さっている方々に心から感謝申し上げつつ、担当者 Sr. 西川へのインタビューを掲載させていただきます。



**質問1：どのような子どもたちがプロジェクトの対象者ですか？**

答： 2～5歳までの軽い栄養不良の状態にある子どもたちを対象としています。

**質問2：その子どもたちをどのように集めて来るのですか。**

答： 地域のヘルスセンターなどと連携し、定期健診に来た親子の中から、栄養不良児を送ってもらったり、私たちの住む地域から参加したい人たちを募ったりします。近所を訪問し、私たちの活動を知ってもらうこともします。

**質問3：プロジェクトの内容を教えてください。**

答： 1週間のプログラムは、子どもたちと母親の身体測定、手洗い、歯磨き指導、三大栄養素を中心にした栄養不良を改善するための献立作り、栄養豊かな昼食、毎日の母親との面接、調理実習などから成り立っています。

**質問4：活動開始から約1ヶ月が経ちました。感想を自由に述べてください。**

答： 様々な親子と接しながら、母親たちのおおらかさに感心すると同時に、子どもたちの世話をすることの大変さ、経済的な困難なども見えてきます。私たちの当初の計画も、その中で、段々と変化していきました。このように手探りしながらですが、少しずつ形になってきているように感じます。伝統的な色が強い東ティモールで、固定観念を変えていくのも難しいですが、学んだことを実践しているお母さんたちも多く、こちらが励まされます。このプロジェクトが、家庭に少しでも喜びをもたらすことを願っています。



僕もスタッフの一員です  
(番犬ナロ)



併設する医療系学生のための寮



ボランティア渡辺彩さんによる講習



第二グループの修了式



## エコグループ BEHAM 大活躍！



前ページでご紹介した栄養プロジェクトのためにとディリ旧修道院の一角に菜園を作っているのは若者のエコグループ BEHAM。強い日差しを避けるためのネットも付け、一番大切な土作りにも余念がありません。指導しているのは一昨年日本の栃木県にあるアジア学院で有機農法を学んできたベニーさん。水遣りは寮生が担当。日本から頂いたきゅうりを初めいくつかの野菜が既に発芽しています。栄養プロジェクト参加のお母さんたちが学びに来るのを待っています。



### 《バザルテテ小学校 LITTLE FARMERS》



バザルテテ小の Little Farmers プロジェクトも順調。熱心に参加した生徒には野菜の他、うさぎもプレゼント。うまく育ててね。

### 《さるとわに：清泉女子大生グループ》

東ティモールと交流する清泉女子大生グループ“さるとわに”が日本語教室で絵本の読み聞かせをしてくださいました。



### 《日本の眼科医の皆様、ようこそ》



日本の数名の眼科医の方々による無料眼科診療が今回六回目を数えました。精巧な眼鏡は入手できない当地で、老眼鏡を頂いて喜ぶ受診者。ご不用になった老眼鏡を

提供してくださる方は左記までご連絡ください。



NPO NAROMAN  
Tel: 045-861-1675



《ゼリアさん帰国》

皆様のご支援で1年半、YMCA 東京日本語学校で日本語を学んだゼリアさんが3月に帰国。現在ディリ市内のYMCA 日本語教室で日本語を教えています。日本語熱が高まるばかりの東ティモールにとって貴重な先生です。左の写真は日本滞在中、あるカトリック集会に参加した彼女を掲載した雑誌『カトリック生活』の記事。

《元日本軍性奴隷エスペランサさんに車椅子寄贈》

第二次大戦中、東ティモールでも日本軍兵士の性の奴隷となった女性たちが多くいました。私たちの調査によると、現在も生きておられるのはそのうちの10名。彼女たちは全国の4つの県で貧しさと病のうちに生活しています。その一人がエスペランサさん（右の写真）。彼女に対してこの度国立リハビリセンターが車椅子を寄贈。右の写真の中央がエスペランサさん、右隣が支援団体のマリナさん。



横浜金沢ロータリークラブ主催の絵画交流。今年はずアルテテ公立小で行われました。



現在、東ティモール人会員は十数名います。去る一月、その家族の集いがありました。

修道院のニュースから

〈インドネシア共同体からこんにちは〉  
右から S.Ana(Portugal), S.Pinky(Vienam), S.Alice(India) S.Jefa(East Timor)



バザルテテ修道院の水不足解決！16年間、水不足に悩んでいましたが、今年になって、やっと井戸掘りに成功！

海拔700mの山間部に井戸を掘り、水が流れた瞬間、大喜びする業者の男性。

ラファエラ東ティモール募金事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 3-8-5

聖心侍女修道会 シスター日高和子

tel: 03-3442-9201

Eail : kazukohidaka08@yahoo.co.jp

＜編集後記＞残暑お見舞い申し上げますつつ、感謝をこめて、ニュースレターをお届けします（中村）